

2023年2月1日より、第1期(5,400kW)発電開始！ DMG 森精機 伊賀事業所 国内最大 自家消費型太陽光発電システム

DMG 森精機株式会社(以下、当社)は、DMG MORI グループ最大の生産拠点である伊賀事業所(三重県)の工場棟屋根に、太陽光パネルの設置面積約 130,000 m²、パネル容量約 13,400kW(13.4MW)の自家消費型として国内最大となる*1 太陽光発電システムの導入を決定し、2022年8月より第1期工事に着手してまいりました。この度、計画通り2023年2月1日より、第1期 5,400kW 分の発電を開始しました。第1期の年間発電量は、6百万 kWh で、伊賀事業所の年間電力需要量の約 13%を賅います。

今後、2024年2月より第2期として約 5,200kW(5.2MW)、2024年12月より第3期として約 2,800kW(2.8MW)、合計約 13,400kW(13.4MW)の太陽光発電を開始する予定です。第3期の発電開始後の年間発電量は 14百万 kWh(14,000MWh)で、伊賀事業所の年間電力需要量の約 30%を賅います。

今回導入する太陽光発電システムは、テス・エンジニアリング株式会社(大阪市淀川区)が提供するオンサイト PPA*2 モデルを採用し、発電する電力は全て自家消費いたします。これにより、年間約 5,300トンの CO₂ 排出量を削減することができます。

太陽光発電システムを導入することで、電力需要の変動や燃料問題に左右されない長期にわたる安定電源を確保し、事業の継続と再生可能エネルギーによる CO₂ 排出量の削減を実現します。当社では、持続可能な社会を目指し、カーボンニュートラルや資源循環型の社会に向けた、さまざまな取り組みを行っています。再生可能エネルギーの活用においては、2020年4月より東京グローバルヘッドクォータ、2021年4月より伊賀事業所、また 2021年11月より奈良事業所にて CO₂ フリー電力の購入を開始し、国内の全ての拠点で CO₂ フリー電力を使用しています。さらに、2022年5月には、伊賀事業所にて、カーボンニュートラルの特性を持つ木質チップを燃料とする、CO₂ 排出量実質ゼロのバイオマス熱電併給システムが稼働しています。また、太陽光発電については、2022年11月からアメリカのデービス カリフォルニア工場で発電を開始し、2025年2月には奈良事業所でも発電を開始する予定です。

実際の CO₂ 排出量削減への取り組みを加速する一方で、自社の活動により削減できない CO₂ 排出量に関して、国際的に認定された持続可能な気候保護プロジェクトへ出資することでオフセットし、2021年よりグローバルで生産する全商品の部品調達から商品出荷までの工程においてカーボンニュートラルを達成しました。当社が出荷する機械には全世界で 2021年からカーボンニュートラルな体制で生産された商品を表す「GREENMACHINE」マークが付いています。

今後も再生可能エネルギーの活用拡大を図るとともに、CO₂ 排出量の削減を加速し、カーボンニュートラルな社会の構築に貢献してまいります。

*1 自家消費型オンサイト太陽光発電に関する公開情報より当社調べ。

*2 PPA:「Power Purchase Agreement(電力販売契約)」の略。電力需要家が発電事業者から直接再生電力を購入する契約形態。

オンサイト PPA モデルは、電力需要家の敷地や屋根等のスペースを利用して発電設備を設置し、そこで発電された電力を当該電力需要家に販売する事業モデル。

参考) 2022年9月20日 プレスリリース

設置面積約 130,000 m²、パネル容量約 13,400kW DMG 森精機 伊賀事業所

国内最大の自家消費型太陽光発電システムを導入

https://www.dmgmori.co.jp/corporate/news/pdf/20220920_solar.pdf



第1期の発電を開始した伊賀事業所の太陽光発電パネル

以上